

青梅市文化財ニュース

第 3 9 3 号

令和 2 年 7 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館(青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859)

ツバメの子育て

ツバメはスズメ目ツバメ科の全長 17cm ほどの渡り鳥です。ユーラシア大陸と北米の広い範囲で繁殖し、冬には東南アジアに渡って過ごします。日本へは種子島以北の全土に渡ってきて繁殖します。冬には大半が東南アジアに渡っていきますが、一部が南日本を中心に越冬しています。

3 月下旬から 4 月上旬をピークに次々と日本に渡ってきて、人家の軒先などに泥と枯草を唾液でこね合わせて巣を作ります。おもに一夫一婦で 4 月～8 月にかけて 1～2 回、中には 3 回繁殖します。

古くから人の住む環境で子育てをしてきたツバメは、私たち日本人にとっても身近な野鳥のひとつです。農薬を使っていなかった昔の稲作では、農家にとって害虫を食べてくれる大切な野鳥でした。また、人の出入りが多い家に巣をかける習性から商売繁盛の印ともなっていました。

こんなにも身近なツバメですが、都市部などを中心に減少しています。日本野鳥の会では 2012 年頃から全国的にアンケート調査を実施し、その結果、約 4 割の方が「ツバメが減っている」と感じていることがわかりました。数年前から日本野鳥の会奥多摩支部の会員からも「ツバメがいません」こんな声を聞くようになりました。農地や緑地の減少、農薬使用などでエサとなる昆虫の減少、住宅の汚れ防止加工による巣をかけられる素材の建物の減少、急速な都市化、山間部の過疎化などが要因と考えられています。

青梅駅周辺には、青梅大祭が行われる 5 月頃になると毎年多くのツバメが営巣しています。青梅では減った印象はありませんが、2020 年の 5 月～6 月にツバメの繁殖状況調査をしてみることにしました。

ツバメの巣の材料は泥と草なので、その材料が容易く集められ人家がある場所に巣をかける傾向があります。営巣の天敵はヘビとカラスとネコなどの動物です。

ヘビが出そうな環境は避け、動物が出そうな環境も避けます。しかし頭のいいカラスとの戦いは非常に困難です。カラスはツバメが人家の軒先に巣を作っても、人の行動が少ない



時間帯を狙ってヒナを襲います。カラスに対抗するにはどうすればよいのでしょうか？カラスも子育てをしています。ヒナにエサを運ばなければなりません。

ツバメの巣をかける場所を調査していくと、人だけでなく車の交通量が多い道路沿いの人家などを選び、カーポートなどにも好んで巣をかけていて、車も利用しているようです。



しかし、駅周辺の商店街をぬけてしまうと交通量があっても巣の数が激減します。人の営みと車の両方を利用していることが分かります。そこで河辺駅から御嶽駅までの青梅線沿線の巣の状況をまとめてみました。

河辺駅周辺では駅構内でイワツバメが乱舞しています。今年造巣していた数は46ヶ所ありました。ツバメはというと3羽だけ飛んでいる姿は見ましたが、巣は1ヶ所もありませんでした。東青梅駅周辺は9ヶ所の巣が見つかりました。

青梅駅へ近づいてくると多くのツバメが飛んでいます。イワツバメも混じっています。イワツバメはマンションの7階～11階のベランダに巣をかけ、ビルの屋上にも出入りして巣をかけて10ヶ所ほどありそうです。

ツバメは1階か2階ぐらゐの高さまでに造巣するのがほとんどです。今年造巣したツバメの巣は56ヶ所ありました。宮ノ平駅周辺は7ヶ所、日向和田駅周辺は5ヶ所、石神前駅周辺0ヶ所、二俣尾駅周辺16ヶ所、軍畑駅周辺1ヶ所、沢井駅周辺2ヶ所、御嶽駅周辺5ヶ所という結果でした。

ツバメが多く見られたのは青梅駅周辺で、100羽以上飛んでいました。ツバメの巣があった場所は店舗のテント内が多く、一つのテントに2ヶ所かけてある所もありました。他にはカーポート、木造人家、鉄筋の建物などでした。不思議なことに江戸後期、明治、大正、昭和初期の町屋と呼ばれる建物には巣がありませんでした。

5月中旬に調査したときには、新型コロナウイルスによる東京都の緊急事態宣言もあり、人通りが少なく車の往来も少ない状況の中、ツバメたちのさえずりが響き、誰もいない駅前を乱舞している様子は印象的でした。ツバメたちも異常事態を感じていたかもしれません。

<引用文献>

藤田 剛ほか(2016)「特集 日本のツバメのいま」.『野鳥 2016年7月号(No. 806)』(日本野鳥の会)

(文責 荒井悦子)